

自己評価書作成要領

教職大学院の認証評価

令和3年12月23日

一般財団法人教員養成評価機構

教員養成評価機構（以下「機構」という）は、申請のあった大学の教職大学院に対して、「教職大学院等の認証評価に関する規程」に定める事項に従い、「教職大学院評価基準」に基づき、認証評価を行います。

認証評価は、『認証評価実施要項』のとおり書面調査と訪問調査により実施します。

まず、認証評価を受ける教職大学院は、それぞれ自己評価を実施し、自己評価書を作成します。書面調査は、各教職大学院が作成した自己評価書（現況票等の基礎データや自己評価の根拠として提出する資料・データを含む）及び評価専門部会が独自に調査・収集する資料・データ等により分析を行います。訪問調査では、『訪問調査実施要領』（別途）に基づき、書面調査で確認できなかった事項等を調査します。

この『自己評価書作成要領』は、各教職大学院で行う自己評価の方法等についてまとめたものです。本要領をもとに適切かつ効率的な自己評価を実施してください。

第1 自己評価の内容

認証評価を受ける各教職大学院は、自己評価を実施し、自己評価書を作成します。自己評価は、10個の基準領域による「基準」ごとに、その内容について「基本的な観点」を踏まえた教育活動等の状況を分析し「基準に係る状況」を記述します。

基準領域ごとの「長所として特記すべき事項」は、各教職大学院の特色のうち、「基準」では収まらないもの、「基本的な観点」に当てはまらないものなど、教職大学院全体の教育活動等の進展に資するものとして広く紹介したい事項を具体的に記述します。評価には影響しません。

「基礎データ」は、自己評価書に添付するもので、「1 現況票」「2 専任教員個別表」「3 専任教員の教育研究業績」「4 シラバス」で構成されています。

「必要な資料・データ」は、基本的には統計的なものとし、機構の評価作業に必要と思われるものを基準ごとに例示しています（本要領巻末参照）。なるべく既製のものを活用願います。

自己評価書の提出を受けて、機構では、「書面調査」及び「訪問調査」を実施します。

第2 認証評価のスケジュール

評価実施の前年度

- 1 1月 ・実施大学から評価申請
- 3月 ・評価委員会 評価実施大学の決定
- ・実施通知・評価手数料支払書類等送付

評価実施年度

- 5月 ・評価委員会 評価専門部会の設置、評価員の選出
- ・評価手数料納付
- 6月 ・評価専門部会 評価員の研修
- ・実施大学から自己評価書の提出
- 7月～8月 ・書面調査
- 9月 ・評価専門部会（評価チーム会議） 訪問調査の打合せ
- 10月～12月 ・訪問調査
- 12月 ・評価専門部会 評価結果原案の決定
- 1月 ・評価委員会 審議・評価結果案提示

- ・意見の申立て手続き
- 2月～3月 ・意見申立審査会 審議
- 3月 ・評価委員会 審議・評価結果の決定

第3 自己評価書の構成及び様式

自己評価書は、次の様式で作成してください。

なお、様式は機構ウェブサイト (<http://www.iete.jp/>) からダウンロードしてください。

- ① 自己評価書は、A4縦長・横書きで作成してください。上下左右 25mm程度の余白をとってください。
- ② 原則として、日本語は明朝体で全角、英字は明朝体で半角、数字は、1桁は明朝体で全角、2桁以上の数字は、明朝体で半角を使用してください。
- ③ 「I 教職大学院の現況及び特徴」の頁から中央下に通し番号（-〇-形式）を付けてください。
- ④ 表紙を除く各頁の右上に教職大学院の名称を付けてください。
例：「〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻」
- ⑤ 基準領域ごとの自己評価の各頁には、教職大学院の名称に加えて、「基準領域〇」を付けてください。
例：「〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 基準領域〇」
- ⑥ 基準領域ごとに改頁してください。

I 教職大学院の現況及び特徴

教職大学院の現況及び特徴は、次の内容構成で 横50字縦40行程度で、1頁にまとめてください。使用する書体は、原則として明朝体で、字の大きさは、9ポイントとしてください。

1 現況

(1) 教職大学院（研究科・専攻）名

教職大学院の名称を記述してください。 例：〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

(2) 所在地

教職大学院の設置計画書に記載した「大学本部の位置」を記入してください。

例：〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇-〇

(3) 学生数及び教員数

評価実施年度5月1日現在の教職大学院の学生数及び教員数を記入してください。

学生数は、評価実施年度5月1日現在の在籍学生の総数を記入してください。

教員数は、休職を除く専任教員数とし、かっこ書きで実務家教員の数を内数で付記してください。

例：学生数 〇〇人

教員数 〇〇人（うち実務家教員〇人）

2 特徴

教職大学院設置までと設置後の沿革や教職大学院設置の理念、設置目的に至る考え方などを含めながら、教職大学院の特徴がわかるように、記述してください。教職大学院のパンフレット等の文章を引用するなどしても構いません。

2回目以降の場合は初回よりも簡潔にまとめ、主に前回の認証評価以降の取組について記述願います。

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

I 教職大学院の現況及び特徴

1 現況

(1) 教職大学院（研究科・専攻）名 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

(2) 所在地 〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇-〇

(3) 学生数及び教員数（令和〇年5月1日現在）

学生数 〇〇人

教員数 〇〇人（うち、実務家教員 〇〇人）

2 特徴

<p>.....</p> <p>.....</p> <p style="text-align: center;">- 1 -</p>
--

II 教職大学院の目的

専門職大学院設置基準第2条第1項に「専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする」とされています。教職大学院は、専門職大学院設置基準第26条(教職大学院の課程)に「小学校等の高度の専門的な能力及び優れた資質を有する教員の養成のための教育を行うことを目的とする」とされています。また、学校教育法第109条第3項において、「専門職大学院の設置の目的に照らし、当該専門職大学院の教育課程、教育組織その他教育研究活動の状況について認証評価を受けるものとする」とされています。

そこで、教職大学院の認証評価においては、自己評価書で、法令による教職大学院そのものの目的に照らし各教職大学院が目標を明示することにより、その目的に向かって教育活動等が実施されているか、評価基準ごとに達成状況を中心に調査、分析します。

法令等に示されている教職大学院の「目的」に照らし、1) 教職大学院の使命や教職大学院がめざすもの、2) 教職大学院で養成しようとする人物(教員)像、3) 教育活動等を実施する上での基本方針などを、原則として横50字縦40行程度で、1頁にまとめてください。使用する書体は、原則として明朝体で、字の大きさは、9ポイントとってください。

○○大学大学院○○研究科○○専攻
<p>II 教職大学院の目的</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p style="text-align: center;">- 2 -</p>

III 基準ごとの自己評価

「基準ごとの自己評価」は、次の**基準領域1**から**基準領域10**ごとに、

- 1 基準ごとの分析
 - ・各基準の〔基準に係る状況〕の記述
 - ・ 《資料・データ等》リスト
 - ・ (基準の達成状況についての自己評価)(特に記述すべき事項を含む)
- 2 「長所として特記すべき事項」

を記述します。

字数は、1基準あたり1,500字(50字×30行)程度とします。基準数の多い基準領域3や基準領域6については、オーバーしても構いません。使用する書体は、原則として明朝体で、字の大きさは、9ポイントとってください。

「基準ごとの自己評価」全体では、45,000字以内を字数制限の目安とってください。基準領域1、基準領域2・・・基準領域10の基準領域ごとに、それぞれ改頁してください。

1 評価基準

教職大学院の認証評価の基準領域は、1から10に分かれていて、各基準領域のなかに、1または複数の基準があります。

たとえば基準領域1（理念・目的）は、1-1から1-2まで2つの基準があります。

基準をすべて満たし、評価基準に適合していると認められた場合に、「適合認定」が与えられます。

2 基準に係る状況

自己評価書において、基準ごとに〔基準に係る状況〕を記述しますが、目的との関連や「基本的な観点」の状況を踏まえて、教育活動等の取組や活動の内容等について、当該基準に係る状況を分析します。客観的な事実を記述してください。

たとえば基準領域2の基準2-1の場合は、「基本的な観点」2-1-1、2-1-2及び2-1-3を踏まえた分析となり、基準2-2の場合は、「基本的な観点」2-2-1を踏まえた分析となります。

自己評価作業の初期段階においては、すべての「基本的な観点」について、一通り状況の分析・整理にあたることは必要ですが、自己評価書にまとめる段階においては、各教職大学院の状況・特色等から判断して、基準に対応した「基本的な観点」のうち一部を除いても当該基準に対して十分に説明できる場合、あるいは「基本的な観点」が該当しないものである場合においては、自己評価書の「基準に係る状況」は「基本的な観点」のすべてに応える必要はありません。

なお、「基準に係る状況」について、「基本的な観点」ごとに記述するだけの例が見受けられますが、その場合でも当該基準に対する状況をまとめて加えてください。

〔基準に係る状況〕の根拠となる資料・データ等のうち、〔基準に係る状況〕の文章記述とあわせて示すことによって、状況説明が分かりやすいと判断されるものについては、必要な箇所を抽出して、資料・データ等を挿入してください。その場合、資料・データ名及び出典（かっこ書き）を付記してください。開示にそぐわない、あるいは、著作権上相応しくない資料・データ等は、本文には挿入しないでください。

なお、本文挿入した資料・データ部分は字数のカウントからは除きます。

3 基礎データ

本文中に基礎データの内容について記述をするときは、「基礎データ1-〇参照」としてください。

「1 現況票」は、評価実施年度5月1日現在のデータを記述してください。

「2 専任教員個別表」は、評価実施年度5月1日現在で作成してください。設置審査、履行状況調査で作成した同様の資料で替えても構いません。

「3 教育研究業績」は、評価実施年度5月1日現在の専任教員が対象です。人事選考等で作成した同様の資料でも構いません。その場合、「月額基本給」「現住所」等の記載部分は削除するなどの配慮をお願いします。設置後最初の認証評価では、設置時からの業績、2回目の認証評価からは前回実施年度からの業績が対象となります。

なお、構成員の研究分野のバランス等から設置あるいは改組時の教員組織が維持されているかを分析・確認するものであり、個人の業績審査をするものではありません。したがって、大部な場合は抜粋するなど適宜調整願います。

「4 シラバス」は、各教職大学院の様式によるものとし、課題研究、実習科目を含め全科目について提出願います。ただし、教科教育等関連で、兼任教員が担当し開設授業科目が多い場合などは省いて差し支えありません。その場合、事前に相談願います。

4 資料・データ等

《根拠となる資料・データ等の例示》を参考に、基準ごとに〔基準に係る状況〕の記述の根拠となる必要な資料・データ等とその資料番号を簡条書き（リスト形式）してください。記載の資料・データ等は、資料集として整理し、自己評価書とあわせて提出します。

5 基準の達成状況についての自己評価

基準の達成状況についての自己評価を次の標語で記入してください。

A…十分に達成している。

B…達成している。

C…達成しているが問題・課題がある。
また、「1）当該標語とした分析結果」、「2）評価上で特に記述すべき点」について、1000字程度（50字×20行）までの分量で記述してください。

6 「長所として特記すべき事項」

各基準領域の最後に設けた特記事項「長所として特記すべき事項」は、当該教職大学院の特色になっていて、「基準」やその「基本的な観点」に収まりきれない事柄などを、広く紹介することにより他の教職大学院の活動の参考となり、教職大学院全体の教育活動の進展に資することをねらいとしています。「基準に係る状況」から抽出して、優れた点を再度まとめるものではありません。具体的な内容を、1000字程度（50字×20行）で簡潔にまとめ、今後の伸張策等を含め、自由に、そして積極的に記述してください。

資料・データ等の挿入も構いません。挿入した資料・データは、字数のカウントからは除きます。

○○大学大学院○○研究科○○専攻 基準領域1

III 基準ごとの自己評価 **(※ 全体で45,000字以内が目安)**

基準領域1
略

基準領域3 教育の課程と方法

1 基準ごとの分析

基準3-1

○ 教職大学院の制度並びに各教職大学院の目的に照らして、理論と実践を往還・融合させる教育に留意した体系的な教育課程が編成されていること。

[基準に係る状況] **(※ 1,500字程度)**

.
. [資料○].
.
. [資料○].

《必要な資料・データ等》

[資料○] 開講授業科目一覧 (学生便覧P. ○)

[前掲資料○] 大学院案内 (p. ○)

[資料○] 履修モデル

[資料○] 時間割 (学生便覧P. ○)

・

・

(基準の達成状況についての自己評価：A) **(※ 1,000字程度)**

1)

2)

基準3-2

○ 教育課程を展開するにふさわしい授業内容、授業方法・形態が整備されていること。

[基準に係る状況]

.
.
.
. [資料○].

「データ名」

(出典： P. ○)

.....

.....

..... [資料○]。

《必要な資料・データ等》

- ・
- ・
- [資料○] 科目別履修登録学生数
- [資料○] 科目別専任教員数一覧
- [資料○] シラバス（学生便覧P. ○）
- [資料○] 履修モデル
- ・
- ・

（基準の達成状況についての自己評価：B）

基準3-3

基準3-4

基準3-5

2 「長所として特記すべき事項」（※ 1,000字程度）

.....

.....

.....

-○-

基準領域ごとに改頁する。

IV 自己評価書のイメージ

教職大学院認証評価
自己評価書

令和 年 月

○○大学大学院○○研究科○○専攻

○○大学大学院○○研究科○○専攻

目 次

I 教職大学院の現況及び特徴・・・・・・・・・・ 1

II 教職大学院の目的・・・・・・・・・・ 2

III 基準ごとの自己評価

基準領域1 ○○・・・・・・・・・・ 3

基準領域2 ○○・・・・・・・・・・ ○

基準領域3

基準領域4

基準領域5

基準領域6

基準領域7

基準領域8

基準領域9

基準領域10 ○○・・・・・・・・・・ ○

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

I 教職大学院の現況及び特徴

1 現況

(1) 教職大学院（研究科・専攻）名：
 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

(2) 所在地：〇〇県〇〇市〇〇町〇ー〇ー〇

(3) 学生数及び教員数（令和〇〇年5月1日現在）
 学生数 〇〇人
 教員数 〇〇人（うち、実務家教員 〇〇人）

2 特徴

.....

.....

.....

- 1 -

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻

II 教職大学院の目的

1

.....

2

.....

.....

- 2 -

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 基準領域1

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻 基準領域1

III 基準ごとの自己評価

基準領域1 理念・目的

1 基準ごとの分析

基準1-1

○.....

[基準に係る状況]

.....

.....

《必要な資料・データ等》
()

(基準の達成状況についての自己評価：A)

1).....

2).....

基準1-2

○.....

[基準に係る状況]

~~~~~

2 「長所として特記すべき事項」

- 3 -

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻基準領域10

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻基準領域10

基準領域10 教育委員会及び学校等との連携

1 基準ごとの分析

基準10-1

○.....

[基準に係る状況]

.....

.....

.....

.....

《必要な資料・データ等》  
 .....( )

.....( )

(基準の達成状況についての自己評価：B)

1).....

2).....

- 〇 -

### 証評価年度に改組した教職大学院の自己評価書の記述

評価年度に改組した教職大学院の認証評価書は、以下を参考に作成願います。なお、それぞれの事情により適宜、調整のこと。不明な点は、あらかじめ問い合わせください。

#### I 教職大学院の現況及び特徴

(3) 学生数及び教員数 (※当該年5月1日現在 (改組後) の人数)

学生数 ○○人【改組前○○人】

教員数 ○○人 (うち実務家教員○○人)【改組前○○人 (うち実務家教員○○人)】

#### 特徴

改組した旨の記述を加える。(簡潔に)

#### III 基準ごとの自己評価

「1 基準ごとの分析」の**次の基準**について、記述の最後に「改組後の状況」という項目を立て、変更点、特色等を簡潔に記載する。

基準1-2 ※改組によって3ポリシーを変更した場合は、変更後のポリシーのみ記載。

2-1 (改組後、入学選抜方法、審査基準等を大きく変えた場合に限る。)

3-1

3-2

3-3

3-4 ※改組によって生じた旧カリ適用の学生への配慮についても記述する。

6-1 (改組後、教員の人数を大幅に変更した場合に限る。)

7-1 (改組後、講義室、院生室の増加等、大幅に変更した場合に限る。)

10-1 ※改組について、教育委員会等への周知についても記述する。

#### 基礎データ

1 現況票 当該年5月1日現在 (改組後のデータのみ)

2 専任教員個別表 当該年5月1日現在 (改組後の専任教員のみ)

3 専任教員の教育・研究業績 当該年5月1日現在 (改組後の専任教員のみ)

※ 改組による採用等教員は、基本的には直近5年間の業績を記載。

4 シラバス 当該年5月1日現在 (改組後の開設している科目のみ)

#### 資料・データ (付加するもの)

- ・ 開設科目一覧 新・旧両方 (対照表でも可)
- ・ 改組後の学生募集パンフレット (広報資料でも可)
- ・ 改組後の募集要項、履修便覧等 (改組前のものは不要)



## V 自己評価書の提出

## 1 提出方法

「自己評価書」は、冊子体を**15部**、それとは別に電子データを提出してください。

|                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教職大学院認証評価<br/>自己評価書</p> <p>（2箇所ホッチキス止め）</p> <p>令和 年 6月<br/>〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------|

冊子（紙媒体）は、表紙の裏面を目次とし、頁なし。  
以下、「I 教職大学院の現況及び特徴」から通し頁を付して両面印刷としてください。

表紙を含め、通常のコピー用紙を使用してください。

基礎データは、冊子体を**2部**、それとは別に電子ファイルを提出願います。

1 現況票、2 専任教員個別表、3 専任教員の教育研究業績  
4 シラバスの順に綴り、ファイル綴じ等の方法でまとめてください。

資料・データ等は、シール、インデックス等で資料番号を付し、冊子体を**2部**、それとは別に電子ファイルを提出願います。

基準領域順に出来るだけファイル綴じし、散在しないよう配慮願います。

適宜、目次（一覧表）を付してください。

シール・インデックスの作成例

|        |
|--------|
| 基準〇-〇〇 |
|--------|

<電子データについて>

「自己評価書」「基礎データ」「資料・データ等」の電子ファイルは、機構の指定するオンラインストレージに格納することにより提出となります（提出方法は別途通知）。「自己評価書」のファイル形式は、MS-Word形式でご提出ください。外字、特殊な漢字等の使用は注意してください。「基礎データ」「資料・データ等」のファイル形式は、PDFに変換しご提出ください。基準領域ごとにフォルダ分けし、ファイル名の先頭に資料番号を付してください。

（添書の例）

自己評価書には、別紙のような書式により、添書（鑑・公文書）を付してください。

## 2 提出期限及び提出先

（1）提出期限 **令和4年6月30日（木）**

（2）提出先 184-8501  
東京都小金井市貫井北町4-1-1  
東京学芸大学内  
教員養成評価機構事務局

（3）提出手段 郵便または宅配便  
「教職大学院認証評価自己評価書 在中」と表示してください。  
電子ファイルはオンラインストレージに格納  
（提出方法は別途通知）

|                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>文書番号<br/>令和 年 月 日</p> <p>一般財団法人<br/>教員養成評価機構理事長殿</p> <p>〇〇大学長<br/>〇〇〇〇（公印省略）</p> <p>教職大学院認証評価にかかる<br/>自己評価書の提出について</p> <p>教職大学院認証評価を受けるにあたり、本学大学院〇〇研究科〇〇専攻の自己評価書及び関係資料を別添のとおり提出いたします。</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|